

二〇二一年度

尚綱学院高等学校  
入学試験問題

国語

試験時間（五〇分）

注意事項

- 一. 「始め」の合図があるまで問題の表紙を開かないでください。
- 二. 解答用紙には決められた欄に受験番号のみ記入し、氏名は書かないでください。
- 三. 解答は必ず解答用紙のそれぞれ決められた欄に記入してください。
- 四. 印刷が見えにくい場合は、手をあげて監督者の指示に従ってください。
- 五. 考査が終わったたら、解答用紙と問題用紙を別々にしておいてください。
- 六. その他すべて、監督者の指示に従ってください。

受験番号

# 第一問 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

宇佐見有人は、吹奏楽部のない高校（羽修館）で、透田大、田子史郎、左右田蒼、汐入隆幸らと吹奏楽同好会を立ち上げた。廃校になった坂野中学の吹奏楽部が使っていた楽器一式の存在を知り、貸してもらえないかと市に問い合わせたのが、話がなかなか進まずにいた。透田は、自分の父の同級生で市議会議員の落沢へ相談に行こうと提案した。

プレハブ建ての事務所に、吹奏楽同好会の五人は自転車で乗り付けた。透田が気楽な調子で挨拶しながら引き戸を開けると、机に向かっていた男が立ち上がった。

「いやあ、よく来てくれた、うん。大くんの友人の、落沢忠雄といます」

思っていたよりずっと若々しい人だった。胸ポケットから素早く名刺入れを取り出し、透田以外の四人に向かって次々と手渡ししてくる。声は大きく身のこなしは素早く、やたらとエネルギッシュな印象の人である。引き締まった体つきと浅黒い肌は三十代半ばくらいに見えた。

「君たちの考えたプラン、非常に面白い企画だよ、うん」

一つうなずいてから喋り始め、自分で X のが落沢議員の癖らしい。選挙演説のうまそうな話しぶりだが、おかげで有人たちが口を開くタイミングはなかなか訪れなかった。

「旧坂野中学の楽器、活用されずに眠っている備品っていうのも、直原市の大事な財産だものね。それを保存・活用するアイデアっていうのは、素晴らしいよ。うん。実現すれば、君たちのためになるってだけじゃなく、誰も損をしないし、私だって条例案を通せば議員としての実績になる。うん、素晴らしい」

事務員らしき中年女性がお茶を出してくれた。有人たちの前に湯飲みを置いていく間、落沢議員は直接お盆に手を伸ばして一つ手に取り、がぶりと飲んで話し続ける。

「ただし、君たちの計画に弱点があるとすれば、受益者限定のシステムだってことだ。誰も損をしないのはいいが、一部の者だけが得するようだと、これは議会からも市民からも突っ込まれるよ、うん。市の財産である以上、そこはパブリックに開かれていないとね。うん、言い換えれば、これから使いたいって人にも広く窓口が開かれたシステムの構築ありきってことだよ」

「受益者限定」とか「パブリックに開かれて」とか、どうもぴんとこない言葉が次々に出てくる。途中で有人や田子先輩が質問しようと口を開きかけたのだが、落沢議員はその質問を Y ように言い換える言葉を連ねていく。おかげで質問する隙もなかったが、

やがて左右田先輩が口を挟むことに成功した。——ラグビーで独走する敵にタックルをかけるように、話の勢いに逆らって太い声を上げたのだ。

「それが要するに——備品管理委託制度ってことですか？」

何が「要するに」なのか、有人にはさっぱり分からなかった。言った本人だって分かってなさそうだが、落沢議員は大きくうなずいている。

「そうそう、そういうことだよ。君、回転速いね。うん、さすが羽修館の生徒さんだ」

褒められた左右田先輩は満更でもなさそうだったが、ちよつと困っているようにも見えた。相手のボールを奪ったものの、そのボールをどうしていいか分からない表情である。

「つまり……楽器を俺たちで独り占めするなってことですかね」

いきなり砕けた言い方になったのは、自分の頭を整理するためかもしれない。幸い、その理解で間違っていないようだった。

「その通り。直原市の備品である楽器が羽修館に貸与されたとなれば、他にも使いたって人は出てくるだろう。そりゃそうだよ。買った高い楽器が無料で借りられたら、誰だって嬉しいものね。それが高校なのか中学なのか、あるいは市民サークルなのか分からないけど、それを断って羽修館だけが受益者となつたらまずいよね？ うん、そりゃあまずいよ。早い者勝ちとはせず、後から出た希望者にも対応すること、その仕組みを作って運用していくことが必要ってことだよ」

「借りるならみんなで分け合おう」透田が言った。B「そのやり方を考えようってことですよ」

透田が笑いかけると、落沢議員も笑顔でうなずく。——どうやら二人の間では話がついているようだった。

「その通り。そういう意味じゃあ君たちも一利用者者にすぎないし、他の人にも同様の利益を提供しようってわけだ。しかし、口で言うのは簡単だけど、これを実行するとなるとなかなか面倒だよ。楽器類を適切に管理し、市民に広く告知し、利用希望を受け付けて貸出と返却のスケジュールを組んでいくんだからね。うん、これはちよつとした大仕事だよ。そのための労力はどうするんだって話は、必ず市議会ですつ込まれるね。しかし市役所はただでさえ忙しいし、新しく人を雇う予算もない。さあ、どうしたもんだらう？」

C議員は問いかけ口調で言葉を切り、吹奏楽同好会の面々を見回して来る。目が合ったので、有人はつり込まれるように尋ねた。

「——俺たちが、やるってことですか」

「その通り！」

落沢議員が声を高め、有人の肩に手をかけた。その言葉を待っていたとばかりに、何度

もうなずきかけてくる。

「ここ数年、行政のスリム化って言われて、市役所の仕事だった行政サービスが民間に委託されるようになってる。そう、直原市の場合、市立図書館や文化会館がそうだよ。旧坂野中の校舎だって、これからNPO法人が管理して活用していくことになってる。そうやって公共施設の管理を民間が請け負って対価を得るのが管理委託制度なわけだが、我々が考えてるのは、いわば楽器の管理委託制度だ。前例はないが、やってみる価値はあるよ。うん、素晴らしいじゃないか。君たちは一利用者であると同時に、貸与制度の運営側も受け持つわけだ。制度作りと運用の労力を提供し、代わりに楽器を使う喜びを得る。見事なギブアンドテイクだ。加えて、高校生のボランティア活動で健全な青少年の育成の一助となるとも言えるね、うん。来年度からの正式運用に向けて、今年下半期に試験的に管理委託することなら反対派だって説得できる」

「なるほど」田子先輩が言った。「試験的運用って、そういうことですか」議員はもう一度うなずいた。今度は透田が先に口を開く。

「どうやったらかまうまくいくか、これからのいろんな学校の吹奏楽部を回って相談してみましようよ。それで俺たちが、楽器貸し出しの受付窓口になればいろんな学校の奴らと知り合えるし、貸し出しと回収ってことでのいろんな学校に行けます。行った先々で、音のチェックとかいつてセッションしたりとか——そういうの、絶対面白いですよ」

「……いろんな学校って」田子先輩が呟いた。「女子校とかも行っちゃうわけか」

「彼女できるかもしれませんよ」透田はすかさず言った。「彼女とまでいかなくたって、友達は作れますよね」

「彼女はともかく」左右田先輩も言った。「女子校とセッションするのは、ラグビー部じゃあできない経験だよなあ」

「よし」田子先輩が笑った。「俺はのった」

「俺も」汐入も言った。「やってみたい」  
もちろん有人も異論はない。満場一致で吹奏楽同好会の意思が固まった。——物理教室で透田が話を持ち出した時にはみんな面喰らっていただけだったのに、一気に話がまとまった。これも落沢議員の勢いに感化されたおかげだろうか。

「いいねえ、部活ってのは」議員も満足そうだった。「役人とか政治家とか、大人たちにこれをやらせたら、単に仕事が増えたと思って面倒がるかもしれない。でも若い君たちは、面倒を喜びに変えられるんだな。うん」

「僕らは面倒を喜びに変えますから」透田が言った。「落沢さんは、条例に変えてくださ

「おう。任せとけ」

議員は選挙ポスターのようにガッツポーズをしてみせた。同好会の面々は拍手でそれに応じる。

日曜日の午前、落沢議員の個人事務所には不思議な高揚感がたちこめた。

(竹内真「ばらっぱフーガ」による)

問一 空欄

X

Y

選択肢から選り記号で答えなさい。

- ① X 納得をする Y 軌道修正する
- ② X 相槌をうつ Y 先取りする
- ③ X 質問をする Y 取り替える
- ④ X 先手をとる Y 尊重する

問二

A

「ちょっと困っているようにも見えた」とあるが、このときの有人の左右田に対する印象をまとめた次の文の( )に入る適当な内容を、「落沢議員」という言葉を使って、四十字以内で書きなさい。

左右田先輩は( )

( )のだろう。

問三

B

「そのやり方」とは、ここでは具体的にどのようなことか、最も適当なものを、次の選択肢から選り記号で答えなさい。

- ① 羽修館だけを受益者とせず、落沢さんの議員としての実績にもなるようにうまく協力していけるようなやり方。
- ② 楽器をうまく分け合うために、羽修館だけでなく希望者みんなでルールを考えて上手に運用していけるようなやり方。
- ③ 直原市の備品である、買ったから高い楽器を、羽修館の吹奏楽同好会が無料で借りることができるようなやり方。
- ④ 利益を受けるのがプランを考えた羽修館だけにならないよう、希望者みんなが公平に楽器を分け合えるようなやり方。

問四 「議員は問いかけ口調で言葉を切り、吹奏楽同好会の面々を見回してくる」とある

が、このときの落沢議員の説明として最も適当なものを、次の選択肢から選り記号で答えなさい。

- ① これまでの説明を高校生が全て理解していないにしても、状況からして明らかに自分たちがやるべきことはわかっているだろうと考えている。
- ② 楽器を分け合う仕組みを管理するうえで市役所は忙しく、新しい人を雇う予算もないので、高校生に名案をひねり出してほしいと考えている。
- ③ 状況と対策法を具体的に事細かく説明したのだから、当事者である高校生は事態を理解して、望ましい回答をしてくれるはずだと考えている。
- ④ 大仕事のための労力はどうかという話は、必ず市議会で突っ込まれるので、高校生に市議会の場で事情を訴えてもらいたいと考えている。

問五 「透田はすかさず言った」とあるが、このときの透田の説明として最も適当なものを、次の選択肢から選り記号で答えなさい。

- ① 話が進んでいくなかで、目立つ発言をして自分の存在をアピールしようとしている。
- ② 話を実現しそうな流れなので、魅力的な言葉で畳みかけて勢いづけようとしている。
- ③ 自分が独自に思いついた意見を出すことで、一気に話を核心に向けようとしている。
- ④ 話の内容にまだ戸惑いが見える仲間たちを笑わせ、話の流れを変えようとしている。

問六 落沢議員の人物像として最も適当なものを、次の選択肢から選り記号で答えなさい。

- ① 仕事に対して熱心で頼もしさがあり、皆をやる気にさせる雰囲気を作り出している。
- ② 若者と打ち解け、議論が本題からそれてしまうほど持ち前の明るさを発揮している。
- ③ 社会への正義感が強いあまり、他の政治家や役人などの大人に不信感をもっている。
- ④ 真面目で、自分の選挙活動も忘れて高校生の幸福のために力を尽くそうとしている。

問七 この文章に関する説明として最も適当なものを、次の選択肢から選り記号で答えなさい。

- ① 落沢議員と高校生たちの話し合いの盛り上がり、それを一貫して冷静に見つめる有人のまなざしとを対比する語り手の言葉によって進行している。
- ② 主人公有人の心の中の言葉を交えつつ、落沢議員はじめ高校生それぞれの細かい心情の変化が話し合いの流れに重ねて描かれている。
- ③ 有人が自分も話し合いに参加しつつ、落沢議員の手柄や話しぶり、仲間一人一人の表情や言葉に注意して成り行きを見守る視点から描かれている。
- ④ 落沢議員と事前に話し合っておいた透田やラグビー部ならではの言動が特徴である左右田など、一人一人の心の中の言葉を描写する形で物語が進行している。

## 第二問 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

\*1

シートンの動物文学は誰もが一度は手にして読み、動物が持つ豊かな感性に感激しつつも、やがてこれは単なる物語であるとして去っていったのではあるまいか。私もその一人である。シートンの小説は、発表された当初に大きな X となったが、やがて動物の擬人的表現が問題とされた。いかにも人間臭い感覚を熊や狼や鳥が抱き、利他的あるいは自己犠牲的行動を起こす。それは人間の願望を描いたに過ぎないのであって、実際の動物にはそんな感情はありはしないという否定派と、いや動物にはそれなりの豊かな感性があり、人間が感情移入しているのではないという肯定派の間で激しい議論があった。実際のところは、動物の正確な生態を描くためには、客観的に動物の種々の行動を詳しく観察し、思い込みを捨てて最も自然な解釈をし、そこから動物がいかなる感情の下で生きているかを想像するしかない。動物行動学の知見を積み上げねばならないのである。

とについても、動物の行動を正確に解釈することはむづかしい。ましてや小説上のことなのだから、科学的であろうとなかろうと、文学の手法として受け入れればいいのではないかという意見もある。それによって、著者が意図したことがより鮮明に表現できているなら動物文学としては成功しているのだから、と。とはいえ、嘘くさいとか出来過ぎだと読者が思ってしまうこともある。むろん、それは作家の Y 次第なのだろうけれど、そうとられてしまうと文学作品としての価値はない。シートンは、そのことをよく知っていて、彼が生涯持ち続けた考え方を未公開原稿に書き残している（『燃えさかる火のそばで』ジュリア・シートン著 早川書房による）。

そこでは、「ほとんどは忘れ去られてしまった多くの動物物語のなかで、今日にいたるまで老いも若きもその心をとらえて離さないような、極めて少ない傑作がある」とし、これらの少数の物語に共通する強みがあると言う。それは「真実なのである」ということだ。その「真実」には、「動物についての真実と、人間を対象にした道義的な真実」の二つがある。それに応じて動物物語には、「動物の生態を純粹に科学的に研究したものと、他方は、人間に理解できる範囲でわずかに動物たちの生態に人間的解釈を加えた」ものがあり、むろん彼自身は後者を目指した、というわけだ。

I、シートンは、動物の生活に深い洞察を注ぎ、多少はおとぎ話の要素を含みながらも、その感覚には真実性があると信じ、作品の全体を通じて観察を重視することを最重点においたのである。そして、「私としては自分の物語は彼ら動物たちの生態の真の概念を伝えているつもりである。そこには動物たちの心配、試練、交配、友情、彼らの敵があり、彼らの生きる生活があり、やがて彼らを待つ死があるのだ」と見定めた。ここで

彼が着目した動物の習性は、多かれ少なかれ生き物として動物が抱く感情であることは確かだろう。そこに視点を置いて観察し、「ありそうなことをもっともらしく書いてよい」と断言するのだ。そう思つて読み返してみると、彼の鋭い観察眼と最後になって現れる人間的解釈が見事に調和していることがよくわかる。

動物行動学においては、動物の反応に人間の心の動きを重ね合わせる擬人化は許されない。人間の解釈に合わせた目的論となつてしまうからだ。動物であっても個性のない物体として行動を解釈しなければならぬ。でなければ、動物行動の普遍性が担保できないからだ。

II、実験室でゾウリムシが前後左右に動き回っているとしよう。科学では、それをゾウリムシが周囲の温度や化学物質や光の量変化を察知して、生き延びるのにより最適な場へ動こうとしていると解釈し、それらの外的条件と反応性の関係を調べることになる。そのとき、ゾウリムシに恐怖心や快楽を求める意志はあるかもしれないが、それは無視して最適化への本能として計測するのである。また、同じゾウリムシといっても怠け者がいれば鈍感な者もいるだろうが、それは平均からの誤差として処理する。まず、平均として示される普遍的反応性を明らかにしようとするからだ。それが科学の正攻法なのである。

III、ゾウリムシよりずっと複雑な哺乳類となれば、個性の差は明らかであり、真正面から感情を考慮しなければならないことは確かだろう。では、どこまでが単純な本能的反応であり、どこからが好悪の感情を考慮しなければならないのだろうか。その線引きは明確ではない。そうだとすると、ゾウリムシだってそれぞれ固有の時間が流れ、異なった感覚があるはずだから、それらの差違は誤差ではなく、本質的な差違であるのかもしれない。そもそも実験の設定自体は人間が考えたものであり、そこに擬人的要素が既に入り込んでいる可能性もある。何を明らかにしたいかは、人間が勝手に決めたことであるからだ。

そこまで疑うと、動物行動学も遺伝子レベルの研究にならざるを得ない。本能とされる動物の行動は遺伝子に書き込まれていると思われるからだ。しかし、動物の成り立ちは DNA の遺伝情報に始まってタンパク質―細胞―器官―個体―集団と階層構造を成しており、その各々で環境との相互作用をも考慮しなければならない。単純に遺伝子一元論ではないのだ。その解析にもまた人為的要素が入り込み、擬人的選択をしている可能性もある。やはり、人間は自然の一部を切り取つて調べているに過ぎないと言えよう。であるなら、シートンのように「ありそうなことをもっともらしく書く」ことも許されるのではないだろうか。

(中略)

シートンは一九世紀後半から二〇世紀前半にかけて多くの作品を発表した。時あたかもアメリカの産業革命と農業革命が進行している最中で、大々的な環境破壊が行われた時代であった。そのため、野生動物の楽園が破壊され、楽園から追い出された野生動物が絶滅に向かった時期にあたる。シートンは人間に追い詰められた野生動物たちのうめき声を代弁しようとしたのだ。多くの動物物語をネイティブ・アメリカンから聞き、滅びゆくものへの哀惜の情から、擬人化手法を駆使してその非を訴えたかったのではないだろうか。最後に、シートンの示唆に富む言葉を紹介しておこう。それは「自然は円を描けない」という言葉である。小石の多い川原を歩いてみよう。何千何万とある小石の中に、完全に丸いと思われるものはあるが、拾い上げてよく眺めてみると少し歪ゆがんでいることがわかる。そこにビー玉でもあればすぐに目に留まり、自然界の小石とは違った丸さであることに気づく。完全な円(三角や四角も)は人工物ではないのだ。

さて、彼はこの言葉によって何を言いたかったのだろうか。私の解釈は、「自然は完全さを求めている、ただそのままそこにあることが重要なのだ」というものだ。あるいは、「擬人化とは人間が完全な円を描こうとする行為のことであって、自然はそんなことを気にせず知らん顔している」、であろうか。人工物に慣れきっている私たちは、あまりに完全さを求め過ぎているのではないか。私たちの息苦しさはそこに起因するのかもしれない。

(池内了「現代科学の歩きかた」による)

【注】

\*1シートン：アメリカの動物文学者。イギリス生まれ。数々の「動物記」を書いた。

\*2ネイティブ・アメリカン：アメリカの先住民民族。

問一 空欄 X、Y に入る言葉として最も適当なものを、次の選択肢からそれぞれ選び記号で答えなさい。

- ① 判断 ② 力量 ③ 問題 ④ 評判 ⑤ 対象

問二 空欄 I、II、III に入る言葉として最も適当なものを、次の選択肢からそれぞれ選び記号で答えなさい。

- ① しかし ② つまり ③ それとも ④ では ⑤ 例えば

問三 「動物の擬人的表現」に関する意見の説明について適当でないものを、次の選択肢から一つ選び記号で答えなさい。

- ① 動物には豊かな感性が存在しているはずであり、人間が感情移入しているわけではないという意見。

- ② 科学的であるか否かにかかわらず、著者の意図を表現する文学の手法として受け入れるべきだという意見。

- ③ 客観的な観察に基づいた動物行動学の知見を積み上げていない点で、文学的価値がないという意見。

- ④ 実際の動物に人間のような感情があるのではなく、感情は単に人間から見た解釈に過ぎないという意見。

問四 「ありそうなことをもっともらしく書いてよい」という言葉は、どのような考えに基づいていると筆者は考えているか、最も適当なものを、次の選択肢から選び記号で答えなさい。

- ① 動物物語の傑作にはおとぎ話の要素を含んだものが多く、それらの作品は動物の生活の真実を伝えることができる。

- ② よく観察したものにわずかの人間的解釈を加えた表現を用いることで、動物の生態の真の概念を伝えることができる。

- ③ 動物の生態を純粋に科学的に研究することで動物たちが抱く感情を見だし、動物の真の姿を文章で伝えることができる。

- ④ 動物についての真実の他に、人間を対象にした道義的な真実があり、後者は動物の習性をより正しく伝えることができる。

問五 「科学の正攻法」とは、どのような方法か、次の文の（ ）に入る適切な内容を、「感情」「本能」という言葉を使って、五十字以内で書きなさい。  
動物の行動を解釈するときに、（ ）方法。

問六 「人為的要素が入り込み」とあるが、人為的要素が入り込む、とはここではどのようなことか、次の文の空欄 A、B に入る最も適切な言葉を、文章からそれぞれ四字で抜き出して書きなさい。

動物の成り立ちの A の各々における、環境との B を考えるときに、取り上げる要素を人間が選んで決めるということ。

問七 シートンに対する筆者の考えとして適当でないものを、次の選択肢から一つ選び記号で答えなさい。

- ① シートンの「自然は円を描けない」という言葉は、自然界の物は少し歪んでおり、完全な物があるとしたら人工物でしかないことを表しているのではないか。
- ② シートンは、擬人化とは人間が完全な円を描こうとする行為だと考え、自らが自然に完全さを求めようとするがゆえに、擬人化の手法を用いたのではないか。
- ③ シートンは、大々的な環境破壊が行われた時代背景の中で、絶滅に向かう野生動物への哀惜の気持ちから擬人化手法を用いて非を訴えたかったのではないか。
- ④ シートンは、人間は自然に完全さを求めようとするが、自然自体はそれを求めてはおらず、ありのままにそこにあることが大事だと考えていたのではないか。

第三問 次の傍線部のカタカナを漢字に直し、漢字はその読みをひらがなで答えなさい。

- 1 秀才のホマレが高い。
- 2 植物の生育をソガイする物質。
- 3 どうするべきか進路でナヤむ。
- 4 キミヨウな形をした建物。
- 5 シボウを多く含んだ食品。
- 6 湖畔の宿で一泊する。
- 7 警察官が犯人を捕縛する。
- 8 晩秋になり、冷え込みが厳しくなった。
- 9 沈黙を破り、真相を語り始めた。  
作業が滞る。
- 10



第五問 次の文章Ⅰの漢文と、それに対する会話である文章Ⅱを読んで、

後の問いに答えなさい。

〔文章Ⅰ〕

馬之千里者、一食或尽粟一石。食馬者、不知其能千里而食也。是馬也、雖有千里之能、食不飽、力不足。才美不外見。且欲與常馬一等、不可得。安求其能千里也。

〔書き下し文〕

馬の千里なる者は、一食に或いは粟一石を  
(一度の食事に一石の穀物を食べることもある)

尽くす。馬を食ふ者、其の能く千里なるを知りて食はざるなり。是の馬や、千里の能ありと雖も、食飽かざれば、力足らず。才の美外に見はれず。且つ常の馬と等しからんと欲するも、得べからず。安んぞ其の能く千里なるを求めんや。

(韓愈「雜説」による)

〔注〕

- \*1 千里…非常に遠い距離。
- \*2 一石…およそ一八〇リットル。

〔文章Ⅱ〕

陽太：「千里の馬」は、一日に千里を走る優れた馬のことなんだって。

それにしてもたくさんえさを食べるんだね。

美月：文章に出てくる「馬を食ふ者」つまり馬を飼っている人は、

その馬が  飼っているんだね。

陽太：だからその馬は腹いっぱい食べられないので、力を発揮でき

ないんだ。いわば「」だよ。

問一 「一食或尽粟一石」が「一食に或いは粟一石を尽くす」という読みになるように、  
 返り点をつけなさい。(ただし、送り仮名はつけないこと)

問二 「馬の千里なる者」とあるが、この馬の能力のすばらしさを表す言葉を、〔書き下し文〕から三字で抜き出して書きなさい。

問三 空欄  に入る言葉として最も適当なものを、次の選択肢から選び記号で答えなさい。

- ① 千里を走る馬であると人に知らせずに
- ② 千里を走る馬であることを知らないで
- ③ 千里を走ることの意味を理解しないまま
- ④ 千里を走る馬の一頭であるとは知らずに

問四 空欄  に入る言葉として最も適当なものを、次の選択肢から選び記号で答えなさい。

- ① 馬の耳に念仏
- ② 背に腹はかえられぬ
- ③ 仏作って魂入れず
- ④ 宝の持ち腐れ



【解答】

第一問 30 点

問 1 ② 4 点

問 2 (例) 落沢議員の話になんとか口を挟めたのはいいが、話をどう進めるべきか戸惑っている (38 字) 6 点

《採点基準》

- ・「落沢議員の話に口を挟めてよかったが」または「落沢議員に褒められて満更でもなさそうだが」という内容を書いている。
  - ・「話をどう進めるべきか戸惑っている」「困っている」という内容を書いている。
- ※右 2 点については、文章中の「ボール」の喩えをそのまま使ったものは不可。
- ・「落沢議員」という言葉を使っている。
  - ・ ( ) の前後につながる形で書いている。

問 3 ④ 4 点

問 4 ③ 4 点

問 5 ② 4 点

問 6 ① 4 点

問 7 ③ 4 点

第二問 30 点

問 1 X ④ Y ② 各 2 点 × 2

問 2 I ② II ⑤ III ③ ① 各 2 点 × 3

問 3 ③ 4 点

問 4 ② 4 点

問 5 (例) 感情を考慮に入れず、最適化への本能として計測し、平均として示される普遍的反応性を明らかにする (46 字) 4 点

《採点基準》

- ・「感情を考慮に入れない」という内容を書いている。
- ・「(動物の行動を)最適化への本能として計測する」という内容を書いている。
- ・「平均として示される普遍的反応性を明らかにする」という内容を書いている。
- ・「感情」「本能」という言葉を使っている。
- ・ ( ) の前後につながる形で書いている。

問 6 A 階層構造 B 相互作用 各 2 点 × 2

問 7 ② 4 点

第三問 20 点 各 2 点 × 10

1 誉(れ) 2 阻害 3 悩(む) 4 奇妙 5 脂肪 6 こはん 7 ほばく 8 ばんしゅう 9 ちんもく 10 とび(お)る

第四問 10 点 各 2 点 × 5

問 1 (1) ① (2) ③

問 2 (1) ③ (2) ②

問 3 ③

第五問 10 点 問 1・問 2 各 2 点 × 2 問 3・問 4 各 3 点 × 2

問 1 一食或尽二粟一石

問 2 才の美

問 3 ②

問 4 ④